

スィーパトゥム大学・福井大学語学研修プログラム (大学内での授業内容紹介)



- * 授業内容は平成 24 年度のものであり、平成 25 年度以降は変更になる可能性があります。
- * **SPU** : スィーパトゥム大学、**RCU** : ラジャパットチャーンカセム大学、**FU** : 福井大学
- * スィーパトゥム大学・福井大学語学研修プログラムでは、このほかにバンコクにおけるオリエンテーション（公共交通の使い方、その他）を行う日や、各自でバンコクやアユダヤを調査してまわる日などが設定されています。

【SPUタイ語1（挨拶）】（担当教員：A.Sompittaya 先生）



この授業は、タイでの生活におけるコミュニケーションの基本となる、初歩的なタイ語を学ぶ、最初の講義です。タイ語での「挨拶」と「自己紹介」の仕方を、実際に声に出して習得していきます。授業は英語を使って行われ、レジユメと白板への板書による内容補足とともに進められます。この授業では、タイ語のアルファベットや文法等、むずかしい解説は行われません。よく使われるフレーズを、講師の発音をまねながら、ひとつひとつ、自分で繰り返し声に出して練習し、からだでタイ語を学んでいくオーラルコミュニケーション形式の授業です。学生同士がペアになって会話の練習を行ったり、全員の前に出て練習成果のデモンストレーションを行ったりしますが、会話の中で正しくない発音があると、都度、講師から直接に改善のアドバイスがもらえるので、とても効率よく、正しいタイ語の発音を身につけることができます。「こんにちは」「さようなら」「よろしく」といった簡単な挨拶を、いろいろな表現で使えるようになるので、この講義のおわりにはもう、タイの人たちに自信を持って、声をかけることができるようになっているでしょう。さらに、「自分の名前」や「出身地」など簡単な自己紹介もこの講義を受ければ行えるようになるので、タイでの友人作りにきっと役立つはずです。タイでの生活の第一歩として、とても重宝する表現をたくさん学べる大切な講義です。積極的に楽しくタイ語にチャレンジしていきましょう！

【SPUタイ理解1（歴史）】（担当教員：A. Supisara 先生）



この授業は「歴史」となっていますがタイの歴史背景や有名な遺跡ばかりではなく、地形や地域による生活の違い、政治、気候、人口、宗教、国旗の意味、国歌など、タイについての様々なことを幅広く取り扱います。内容は日本の中学、高校の社会の授業といった感じです。授業は全て英語を使って行われます。英語を使って行われる授業に慣れていない人、英語が苦手な人は多少苦勞するかもしれませんが、簡単な英語で話してくれるので集中して聞いていれば問題ないでしょう。授業形式はスライドを見ながら講師が説明、補足していくといったもので、日本の大学で受ける授業に近いです。タイで受ける2回目の授業ということで、自分たちが訪れた国はどのような国なのか、基本的なことはこの授業を受ければ大抵知ることができるでしょう。タイについて知ることは、なぜあれはあのようになっているのだろう、なぜこのような習慣があるのだろうといった疑問が見つかった時のヒントになり、異文化の理解につながります。それだけでなく日本との違いを知ることでも今までとは違う視点から日本を知ることでもできるでしょう。ただ街を歩いたり、人と話したりするだけでも、その国についての知識があるかないかでは、得られる経験、理解に大きな差がでると思います。これからタイで学んでいくみなさんにとって、自分がどれだけ成長できるか、どれだけ学んだことを活かし吸収できるか大きなターニングポイントになる大切な授業の一つです。英語は苦手だからと諦めたりせず、最後まで集中してがんばりましょう。

【SPUタイ語2（数など）】（担当教員：A.Tuwaporn 先生）



タイ語での数字の読み方に関する授業です。授業の前半では一桁、二桁、三桁までの数字の表記と発音について勉強します。授業の後半では、数字の表現の応用として、時間に関する表現を勉強します。タイでは時間帯により表現方法が異なるため、非常に興味深い授業となるでしょう。基本的に、先生の言ったことを繰り返して、言葉の使い方や発音を身につけながら授業は進められます。タイ語の発音は難しいため、一度では覚えられないことがほとんどです。先生が根気強く教えてくれるので、恥ずかしがらず、何回も何回も発音して覚えていきましょう。ある程度発音ができるようになれば、日本人学生どうしてペアを作って会話形式での練習を行います。何度も繰り返して発音することで、数字を一通り覚えることができます。タイ語表記の数字は街中でもよく目にするでしょう。毎日学校に通うために乗るバスの表示が理解できるようになったり、買い物の時などは、店員と値段交渉をしてみたりもできるようになります。この授業を通して、タイでの日常で非常に有用な表現を覚えることができます。先生の英語は時折、難解である場合もありますが、何度も繰り返して解説してくれるため、大体の意味は理解できます。また、先生の表現が解らない場合、解らないということをちゃんとアピールすれば、より簡単な表現を使って解説してくれます。早い段階で質問することはとても大事です。

【SPUタイ理解2（社会）】（担当教員：A. Supisara 先生）



この授業では、タイの街中でよく見られる花飾り（Garland）を作ります。タイ理解の授業は実践等、自分たちでタイの文化を体験する授業が多く、英語とパワーポイント、動画や音楽など、日本人学生に視覚的にわかりやすい授業が行われます。タイの社会の中で花飾りはどういう意味があるのか、これから作る花飾りの作り方など、スライドとパワーポイントを交え説明があります。Garland 作りに欠かせない長い縫い針や、ジャスミンやバラ、タイの王冠の形をした花といった、様々な種類の花が用意され、思い思いの Garland を作っていきます。はじめは作ればいいのか戸惑うでしょうが、講師や助手の先生がとても優しく教えてくれるので、すぐ慣れることができます。どうやったら綺麗に花が刺さるか、どういうデザインが一番綺麗に見えるのか、競いあいながら、全員それぞれの Garland を作りましょう。

【SPUタイ語3（商品）】（担当教員：A. Rungrat 先生）



この授業では、買い物の仕方を学ぶとともに、発音記号を用いてタイ語の発声を学べます。買い物の仕方についての授業では、店員との会話を例として、値段の聞き方、値引き交渉の仕方などを学びます。そして、学んだ会話をペアで練習し、発表します。自由時間には、町中に出て買い物をする機会が多くあると思うので、この授業で習ったことがそのまま役立つかもしれません。発声練習の授業では、タイ語と発音記号を並べて見ながら、実際に発音の練習を行います。タイ語は、同じ単語でも、イントネーションの違いで、複数の異なる意味になるものがよくあります。この授業では、少しでもそのイントネーションの違いに気付き、発音できるようになればいいと思います。プリントが配られるので、持ち物は基本的には筆記用具だけで大丈夫です。タイ語の単語帳など、基礎的な参考書があると役立つでしょう。

【RCU日本語TA】(担当教員：井尻先生)



日本語を学んでいる現地の学生の Teaching Assistant を務めるため、スィーパトゥム大学からチャンカセムラジャパット大学に場所を移します。チャンカセムラジャパット大学に到着し、教室に入ると、チャンカセムラジャパット大学の学生が暖かく歓迎してくれます。チャンカセムラジャパット大学のタイ人学生がプレゼンテーションを行い、自己紹介も兼ねて、タイの歴史や文化や観光地などを紹介します。このとき、タイ人学生はプレゼンテーションに関する日本人学生の質問に対して、できるだけ日本語で答えようとしてくれますので、積極的に質問したほうが良いでしょう。プレゼンテーション後は、チャンカセムラジャパット大学側から日本人学生に対して、タイ・アユタヤで有名なお菓子が配られます。お菓子の食べ方がわからない日本人学生は、タイ人学生に食べ方などを聞いて、積極的にコミュニケーションをとっていきましょう。食事や交流が一通り終われば、グループ分けを行い、一つのグループに日本人学生とタイ人学生がそれぞれ2～3人いる状態を作ります。グループに分かれた後は、互いに質問・会話を行う時間となり、本格的な交流の時間となります。この時の会話で用いられている言語は、ほとんどが日本語であり、タイ人学生は平仮名や片仮名をほぼ完璧に表記することができるので、気軽に楽しく会話することができるでしょう。グループ交流後は、日本人学生が用意していたサプライズイベントを行い、さらに互いの親睦を深め合います。その後、日本人学生は別室に移動し、タイ人学生の普段の授業風景に参加します。

【SPUタイ語4（食べ物）】（担当教員：A. Nattakan 先生）



この授業では、基本的な食事、食べ物に関するタイ語のボキャブラリーやよく使うフレーズを対話形式で学んでいきます。授業のスタイルは、パワーポイントや配布資料にあるタイ語を、先生のあとに続き復唱することにより、タイ語の単語や慣用句について意味と発音を同時に覚えていき、なおかつ2人1組での対話練習により、理解と実践力を深めていくというかたちです。授業の進め方は、まずタイ語での、「～を食べる」や「おいしい」「おなかがすいた」などの動詞を学ぶところから入り、野菜やエビなどの食材やトムヤンクンといった料理名、「熱い」や「冷たい」、「甘い」などの形容詞の意味を理解していきます。そして、発音を先生のあとにつづいて復唱し覚えていきます。「あなたは何が食べたいですか？」や「その食べ物はどうですか？」などの返答によく使うフレーズを2人1組のペアを組んで対話練習も行います。最初に覚えた料理名を使い、よく使うフレーズに応用したりもします。「食べる」だけでなく「飲む」も覚え、覚えた形容詞と名詞を組み替えて「暖かいコーヒー」や「冷たいコーヒー」などいろいろな表現を身につけていきます。授業の内容は「食べる」「飲む」といった基本的な内容ですので、理解しやすく、生活していく上で、食事の場面でのフレーズはとても重宝するので、しっかりと理解し覚えるべき授業です。

【SPUタイ理解3（文化）】（担当教員：A. Supisara 先生）



この授業ではタイの歴史や伝統などといった文化について学びます。この授業は英語で書かれたパワーポイントのスライドの用紙を五枚ほど配られ、それに沿って展開されていきます。その量はとても多く限られた時間内で終わらせるために切り替えが早く、その上スライドには書かれていない部分を口頭で説明されるため、授業内容を正確に理解するためには高レベルのリスニング能力が要求されます。しかし、スライドに書かれている英文自体は比較的に分かりやすいため授業終了後自室で辞書などを用いて復習をすれば理解できるでしょう。この資料はフィールドワークの際にどのようなところに向かうか等とても参考になるため、スライドの写真部分を見て興味のある部分を簡単にまとめておくといいです。授業の終盤部分ではスライドにも出てきた小麦粉や砂糖、ココナッツを用いたタイの伝統的なデザートを実際に食べタイの文化と触れあいます。

【SPUタイ語5（応答）】（担当教員：A. Rungrat 先生）



授業はタイ語で道を尋ねること、そして、それに対する応答を学びます。最初はパワーポイントのスライドにより、銀行やマーケットなど、場所についてタイ語でどのように発音するかを学びます。この授業は、タイ文字は使われておらず、ローマ字表記だけで、複雑なことは考えず、言葉でそのまま頭に入れることができます。そして実際に、銀行やマーケットなど場所について習ったタイ語を使って会話します。会話の内容は、道を尋ねるときと、尋ねられたことに対して応答する一連の流れです。この会話を講師の先生の発音に習って自分たちも発音し、会話を暗記するくらい繰り返し発音します。ある程度、一連の流れを掴んできたら、信号、橋、インターセクションなど道の目印になるものを含めた応用に進みます。ここで、道の答え方についていくつかのバリエーションを学びます。その後、タイ語で道を尋ねること、そして、それに対する応答を確かなものにするため、実際に前にでて実践します。この実践で、タイ語で道を尋ねること、そして、それに対する応答の流れは習得できます。

【SPUタイ語6（会話）】（担当教員：A.Sompittaya 先生）



タイ語研修もついに終盤に差し掛かります。今回の講義ではこれまでの講義で習ったことの復習（挨拶・数字）から会話、すなわち応用編までを習います。応用編といってもそれほど難しいことをするわけではありません。英語でいうと熟語のようなものです。例えば、道に迷った時や落し物をした時、場所を訪ねる時に使用する例文を学びます。この講義の受講前と受講後と比較すると、タイでの生活フィールドがかなり広がります。英語のできないタイ人にも話しかけられるようになります。つまり、すべてのタイ人に理解することのできる言葉を使うことができるのです。また、この講義では歌も習います。実際歌ってみるとこれがまた難しい！タイ語で歌を歌うことができるならば相当のタイ語のレベルまで到達していると自信を持って言えるでしょう。歌えるよう頑張ってチャレンジしてみてください。

【SPUタイ復習（認定）】（担当教員：A. Ubon, A.Tuwaporn 先生）



認定とは、今まで習ったタイ語の挨拶、自己紹介、数字、時間の訪ね方、道の訪ね方、食べ物の頼み方など確認するテストです。これに合格しなければ福井大学では、タイの短期留学における1単位の取得ができません。テストは口頭試問です。先生との挨拶からはじまり、「食べ物の頼み方」「現在の時刻の尋ね方」「時刻の答え方」「出身地はどこか」などが出題されます。学生はそれらの問いに答え、続けて先生が質問を重ねるという形です。タイ語を話さなければならないという環境の下でタイ語を勉強するという事は、私たちにとっては恵まれた環境です。それに加えて、復習しなければならないという意識を与えてくれるこのテストは、学生の気持ちを鼓舞させタイ語の理解をさらに促してくれます。この認定の良い点は、二つあります。言語を学ぶにあたってインプットとアウトプットを同時に行える口頭での問いは、言語習得の近道です。したがって一つ目の利点は効率よく言語を学ぶことができるという点です。二つ目は前日まで覚えたことをすぐに身に付いているかどうかを確認することができる点です。それによって、より鮮明に脳にきざむことができます。これらのテストで得ることのできる能力は、「タイ語の具体的な使い方を知る能力」です。また、この認定で復習した内容は実用的なものであるため、すぐに日常生活に反映できます。日常で活用することでさらなる学習意欲に繋がります。

【FU日本文化プレゼン】(担当教員：竹本先生)



福井大学生による日本文化の紹介です。紹介は英語で行います。2012年度、福井大学生は4チームに分かれ、各チーム1テーマ、合計4テーマ「日本のスポーツ」「日本のアニメ」「日本の食文化」「日本のファッション」を発表しました。発表後、スィーパトゥム大学の教員、学生等と福井大学生の質疑応答が行われました。自分たちの国の文化を見つめ直すということは、日本人として、自分たちの国のアイデンティティを再確認する機会にもなります。

【SPU日本・タイ講義】(担当教員：森先生)



ASEAN についての講義です。授業形態はパワーポイントで進行していき、世界におけるタイの重要性などを先生がクイズや生徒からのコメントを使い説明していく授業です。最初に ASEAN についてのビデオ観賞をします。それについての感想を書きます。このビデオの内容は、ASEAN に加盟している国の現状を主に取り扱われています。例えば、有名な歴史的建造物やその国の人々が暮らしている下町の風景、発展してきている街並み、都市の高層ビルなどを映し出しています。次に ASEAN に対するクイズが出題されます。加盟国の総数など、意外と知らない常識問題を聞かれます。なかなか難しいクイズです。最後に世界から見てタイの重要性の話です。生活する上で日常品として使われている製品について詳しく説明していきます。この身近な製品はタイが輸出の世界シェアをどのくらい持っているのか、第何位かを当てるというクイズ形式で説明しています。このクイズも順位を当てるのが難しく、なかなか正解者はいないでしょう。クイズは正解を伝えるだけではなく、ASEAN に加盟している国についても詳しく解説しながら進行していきます。タイで強い分野や ASEAN の加盟国であるインドネシアで世界一の輸出産業など、ASEAN 全体の説明も入っています。この授業を受ければ、ASEAN の基礎的な知識を養うことができます。

【SPU英語国際Program】(担当教員：A. Boonyachote 教員)



この授業では、Eメールやメモといった文書を用いたコミュニケーションにおける注意点と、Officeの使い方について英語で学びます。授業の前半は講義形式で、文書を用いたコミュニケーションについて授業が行われます。文書を書く上で重要となるのが読む力と書く力です。具体的に読む力とは、理解力・語彙力・スピードであり、もし自分の知らないことが出てきた場合は、文脈からその意味を読み取る力も必要となるでしょう。一方、具体的に書く力とは明確さ・正確さ・丁寧さ・完全さであり、伝える内容がポジティブな場合は直接的に伝え、ネガティブな場合は間接的に伝えることが大切です。効果的な文書を準備する上で重要なのは、下書き・編集・推敲であり、ビジネスで用いられる手紙、特に契約書などにおいてはカンマの位置や有無によって誤解が生じることがあるので注意が必要です。もういった、日常で必要となるオフィスオートメーションを英語によって学ぶのが、この授業です。授業の後半は以上で述べたことを念頭に、Google docsを用いて与えられた課題を行います。

【SPU英語国際Program】(担当教員: Dr. Suttiporn 先生)



この授業は、スーパトゥム大学の学生と一緒に受講する英語の講義で、簡単な日常会話を学ぶ講義です。スーパトゥム大学の学生と自由にグループを作り、簡単な自己紹介をしたり自由に会話をしたりします。スーパトゥム大学の学生の中には、とても流暢に英語を話す学生もおり、講師もグループの会話に参加し、英語の発音や表現などについて様々な助言を行いますので、英語でコミュニケーションをするととても良い練習になります。また、タイの人の英語には独特の訛りがあり、日本特有の訛りとは大きく異なります。その訛りを理解し、聞き取ったり伝えたりする良い練習にもなるので、タイで生活する上でとても重要なスキルを身につけることができます。さらに、スーパトゥム大学の学生と自由に会話をする授業なので、スーパトゥム大学の学生と仲良くなるチャンスでもあります。どれだけ積極的にコミュニケーションできるかが大切です。多くの人とたくさん話をする事で、英語でのコミュニケーションに自信をもつことができるので、その後、多くの局面で様々な国の人たちと話をする際に自信をもって話せるようになります。タイでの生活の様々な場面で、最も大切なコミュニケーションツールは英語です。この講義で自分の英語に自信をつけて、その後の生活の中で積極的に使いましょう！